



なのはな通信

24年度 六ツ美中部小学校

校長室だより No. 19

平成 25 年 1 月 22 日

「岡崎城南ロータリークラブ」様より、理科教室のご支援をいただく

一月十六日（水）、岡崎城南ロータリークラブ会長様をはじめ、六名の方々がお成金の贈呈と授業の参観にご来校されました。また、教育委員会の児玉洋行指導主事のご協力もあり、今回の理科教室を開催することができました。講師の産業技術総合研究所の小塚博士は、家族ぐるみでグラスの準備をし、六年生全員がグラスに触れるようにしてくださいました。

超音波の研究をしている科学者として、「なぜだろう。」「どうすれば解決できるのだろう。」という疑問や「探究することのおもしろさ」を教えていただきました。最後にグラスハーブを使って全部の班が演奏できました。



会長の近藤憲康(司法書士)様より贈呈

新 知 愛 海 東



グラスハーブを練習する児童たち
岡崎市六ツ美中部小学校で

グラスハーブで「実験」

六ツ美 音の不思議を体験 岡崎

岡崎市六ツ美中部小学校で十六日、理科実験教室「グラスハーブで探る音の不思議」が開かれた。子どもたちに理科に興味を持ってもらうと、岡崎城南ロータリークラブ（近藤憲康会長）が後援した。講師に産業技術総合研究所の小塚晃透博士を招き、六年生四十六人がグラスハーブを使った「音」の学習を行った。グラスハーブは、ガラス製の容器のちぎれを濡れた指で擦ることによって、独特の美しい音を奏でる楽器。グラスの形状や、グラスに注ぐ水の量が音を変化させる。

のが特徴で、この日はワイングラスとシャンパングラスを使った。児童たちは、グラスハーブの原理や音が伝わる仕組みなどを聞いた。三、四人の班に分かれてグラスハーブをチューニング。目的の音が出せるように調整して、練習するうちに音が出るようになった。低音が難しかったです」と話した。

なわとび

三十一日に行

われるなわとび集会に向けて、今、どのクラスも一生懸命に取り組んでいます。先生見ててね。」という声が、毎日のように聞こえてきます。



「二重飛び」や「はやぶさ」が楽しくできるようにと、考えて作られた練習板（ジャンピングボード）を使うために順番を待つ子の列ができます。「お母さん見ててね。」

この言葉も、親子の大切な関係を表すものです。先生にも、親にも見てもいい、褒めてもらいたいという気持ちがあるのです。タイミング良く、できたことを心から褒められる先生や親が近くにいれば、子どもは安心して、やる気を起こします。

《本の紹介》

犬たちをおくる日
一この命、灰にならな
ために生まれてきたら
んじゃない（ノ知ら
フィクション 世界）
れざる世界）
著者：今西 乃子
浜田 一男

出版社：
金の星社
1365 円
中学年以上

